

【目的】全身性ALアミロイドーシスに対する自家末梢血幹細胞移植(以下、ASCT)の安全性および有効性を高めるために、当院においてこれまでに行った35例のASCTについて予後因子および治療効果を検討した。

【対象】2006年9月から2012年7月に当院で自家末梢血幹細胞移植を行った全身性ALアミロイドーシス35例。

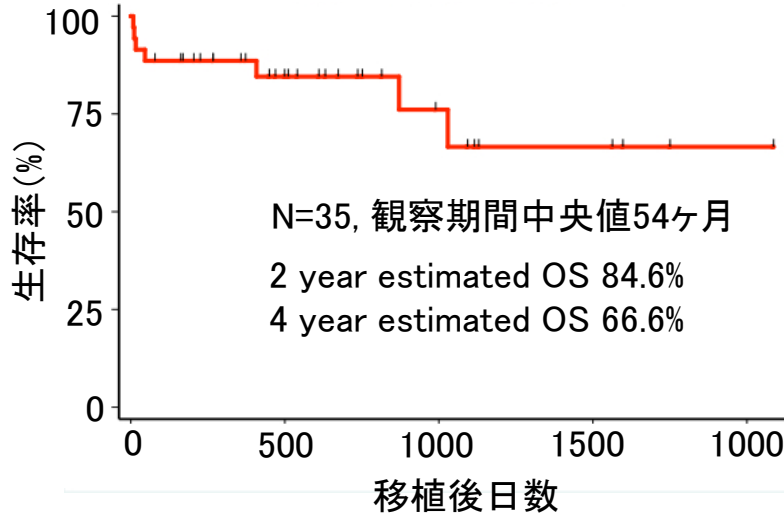
【結果】(次項参照)

【考察】

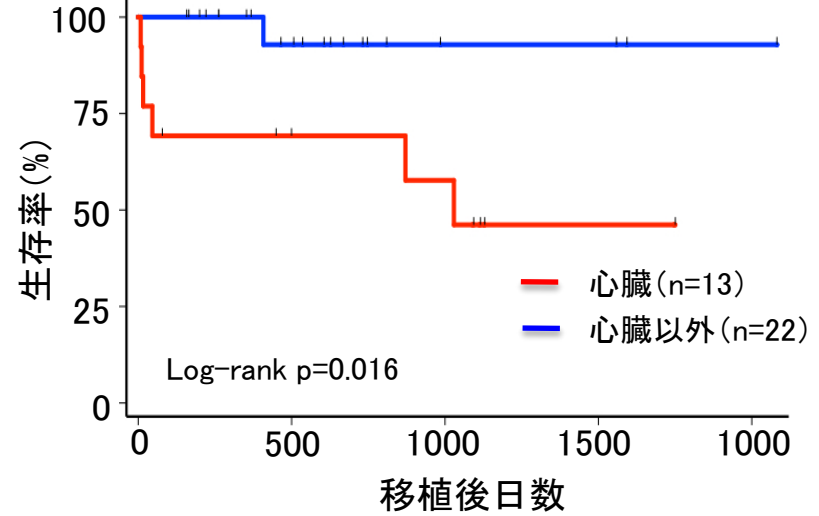
1. 35例の生存率は2年で84.6%、4年で66.6%であった。
2. 有意な予後不良因子は、「主病変が心臓」、「BNP値が $600\text{pg/mL}$ 以上」、「LVEF 55%未満」であった。
3. 12ヶ月の観察が可能であった症例では平均で21%の血清アルブミン値の上昇がみられた。
4. 血漿BNP値の改善は一部の症例にのみ認められた。
5. 移植前後で評価が可能であった5例中4例において速やかなFLCの低下が認められた。
6. 心臓に病変を有する症例では、慎重な移植適応の検討と移植前後の全身管理が重要である。

当院で行った全身性ALアミロイドーシスに対する  
自家末梢血幹細胞移植35例の検討

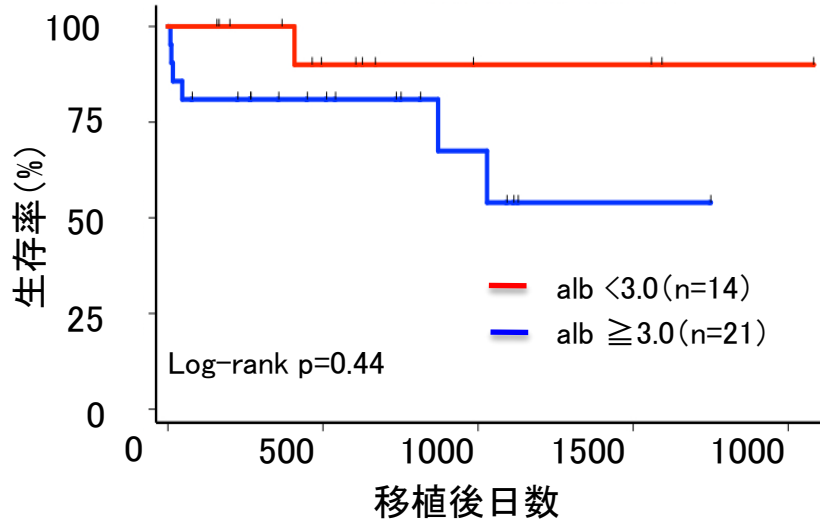
**全症例**



**主病変**



**血清アルブミン値**



**血漿BNP値**

